

終戦から75年以上が経過しました。かつての戦争や空襲を実際に体験した人々は少なくなり、その記憶もうすれつつあります。

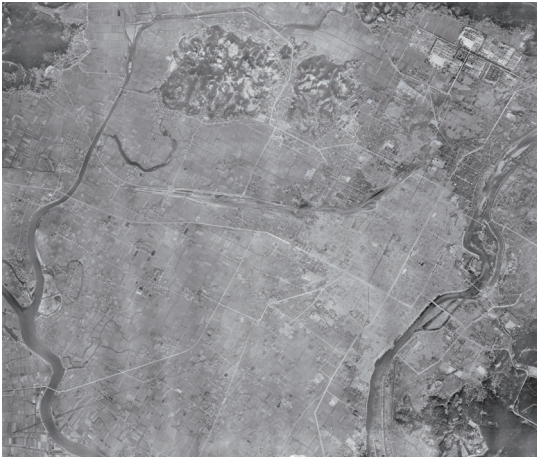
体験者のなかには、自らの記憶を語ったり書き残したりして、あるいは記憶をもとに絵を描いたり、焼け跡の写真を撮影したりして、あのかのときの出来事を後世に伝えようとしてきた人たちがいます。そこから私たちは、戦争がもたらす被害の甚大さ、家や家族や友人を失った人々の悲しみ、物資が乏しいなかで営む生活の困難さなどを知ることができるでしょう。

一方で、記憶とはあくまで個人的・主観的なものであり、自らがそのとき見聞きした範囲の情報に限られるものです。たとえば、体験者のほとんどは、自分たちを襲った空襲がどのような計画のもとで実行されたのかを知るよしもありませんでした。それが知られるようになるのは、太平洋戦争に関わる米軍の記録資料の機密指定が解除され、その研究が進んでからのことです。そのほかにも、空襲の被害状況の把握や罹災者の救護などのために作成された様々な記録や資料は、人々の記憶から漏れている多くの事実を教えてください。

体験者の記憶と、記録からわかる事実。この2つを通して、今の私たちが知っておくべきこと、そしてそれを将来へどのように伝えていけばよいのかを考えます。

岡山空襲について

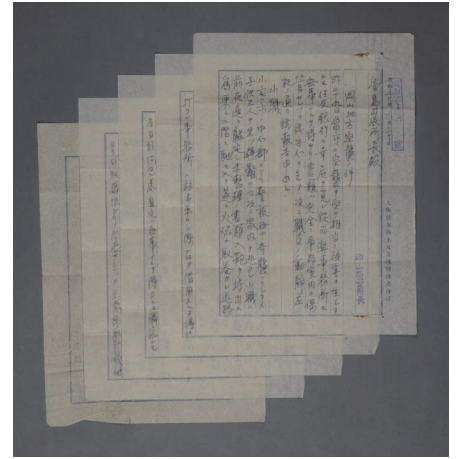
1944年から翌年にかけて、日本全土において市街地を対象とした大規模な空襲が米軍によって行われました。岡山市の場合は1945年6月29日に大規模な空襲を受け、当時の市街地の63%を焼失し、少なくとも1737人*の死者が出ました。（*2000人をこえるという説もあります。）



1945年7月5日に撮影された空襲後の岡山市
アメリカ国立公文書館所蔵 工藤 洋三 提供



『焼夷弾爆撃二依ル焼失状況』
岡山市立中央図書館所蔵



岡山空襲の翌日に作成された大阪海上
火災保険株式会社岡山支所長の報告書



「銃後漫画通信」(画像は一部) 南 義郎 作 1942年

記念講演会

演題 「戦災と震災を伝えるためにー記録と記憶の往還の中で」

講師 佐々木 和子さん(神戸大学大学院人文学研究科 学術研究員)

日時 2021年7月31日(土) 午後1時30分～3時30分

場所 岡山シティミュージアム 4階講義室

定員 30名(先着順) ※事前申込不要

展示解説

担当学芸員による展示解説

日時 2021年7月31日(土) 午前11時～11時30分

場所 岡山シティミュージアム 4階講義室

定員 30名(先着順) ※事前申込不要

新型コロナウイルス感染症対策につきまして

- ・マスクの着用、咳エチケットや手指の消毒などの感染予防にご協力をお願いします。
- ・咳や発熱などの症状がある方は、入館をお控えください。
- ・展示室内では最低1メートル以上の距離を保ちながらご鑑賞ください。
- ・受付にて係員による体温測定を受け、お名前・連絡先などを記入票にご記入のち、ご入場ください。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で会期や内容等が変更になることがあります。
- ・最新情報は岡山シティミュージアム HP にてご確認ください。(https://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/)



岡山市北区駅元町 15-1
岡山シティミュージアム
TEL 086-898-3000
岡山空襲展示室
TEL 086-253-7070
JR 岡山駅から東西連絡通路で直結